

AMDAを訪れ感謝

南三陸町長 震災の経験語る

北 区

2011年3月の東日本大震災後、東北で復興支援を続ける国際医療NGO「AMDA」の本部(北区伊福町3)に8日、宮城県南三陸町の佐藤仁町長が訪れた。佐藤町長は「とてもお世話になった」と述べ、震災以降の経験を語った。

佐藤町長は震災直後を振り返り、「一番重要なのは医療」と話し、

「町では病院が津波で壊滅状態になり、臨時に開いた診療所では薬が不足。支援物資として届いた薬は普段医師らが使う新薬ではなく、ジェネリック(後発)医薬品だった。」「薬剤師が少なく、薬の効能を確認するのに苦労した。薬を床いっぱい

光景が忘れられない」と語った。

交感コミュニケーション

SHINKO

シンコー印刷株式会社

本 社

岡山市北区島田本町2丁目7-16 〒700-0033

TEL (086) 252-3291(代)

FAX (086) 252-3223

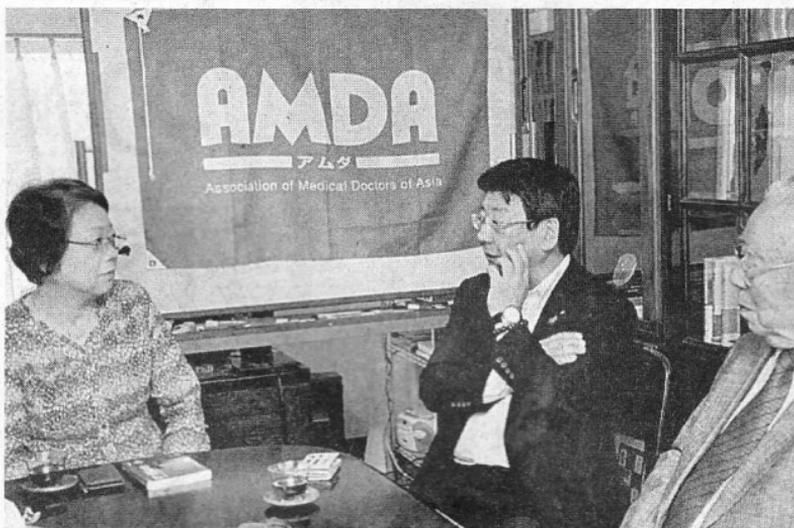
仮設の閉鎖などに伴う別の仮設への引っ越し▽災害公営住宅への引っ越し——など、何度も転居を繰り返す。佐藤町長は「せっかく築いたコミュニティーが何度も壊れる。災害は残酷」と指摘した。

AMDAは世界の災害地や紛争地に医療チームを派遣しており、東日本大震災の際は、発生翌日の3月12日から被災地に入った。南三陸町は、公立志津川病院に1年にわたり看護師を派遣するなどした経緯があり、特に縁

が深いという。佐藤町長は町民から「ぜひAMDAにお礼を」とい

う依頼を受け、関西出張を機に立ち寄った。

【五十嵐朋子】



東日本大震災の当時を振り返る佐藤仁・宮城県南三陸町長(中央)と、AMDAの職員ら
—北区伊福町3のAMDAで